

概要

視点の概念を軸にしてドイツ語と日本語の受動文の意味を対照的に特徴付ける。日本語では「被影響」という特徴を持ち、日本語に固有とされるタイプの受動文を、ドイツ語では受動表現の中核を占める **werden**-受動文を中心に考察する。視点について視座と注視点の区別をより明確に意識することにより、「ドイツ語の受動文が注視点に関して能動文と異なるのに対して、日本語の固有の受動文は視座に関して能動文と異なる」という一般化が可能になる。そのような違いがテキストの中で具体的にどのように現れているか、現在データ整理の段階だが、可能な範囲で提示する。

1. 問題設定

- (1) **Sie verabschiedete mich, und ich fuhr.** (B. Schlink: Vorleser: 77)

彼女_主 別れを告げた 僕_対 そして 僕_主 行った

彼女に送り出されて、ぼくは出ていった。(「朗読者」松永美穂訳 95)

- (2) みんな洗濯物をどんどんベッドの下に放りこんでおくし, ... (村上「ノルウェイの森」上 28)

Schmutzige Wäsche wurde unters Bett geschmissen, ... (Naokos Lächeln, U. Gräfe 訳)

汚い 洗濯物_主 助動詞_{受動} ベッドの下に 放り投げる_{過分}

⇒ ドイツ語の **werden**-受動文と日本語の固有の受動文は意味がどのように違うのか。特に視点との関連でどのように捉えられるか？

2. 「視点」概念を構成する4つの要素

- a. 視点人物 (誰が見るのか) b. 視座 (どこから見るのか)
c. 注視点 (何を・どこを見るのか) d. 見え (どのように見えるか) (茂呂 1985, 松木 1992)

⇒ 特に視座 (カメラの位置) と注視点 (焦点=ピント) の区別がここでは重要

3. 日本語の受動文の類型

益岡 (2000: 55ff.) に基づいて。例文(3)~(11)も同書から引用。

[A] 属性叙述受動文: 「ある対象が何らかの属性を有することを表すもの」(益岡 2000: 56)

- (3) 『華麗なる一族』は多くの中国の人民に読まれています。(山崎豊子「『大地の子』と私」)

[B] 受影受動文: 「受動文の主体が他者から事象を通して何らかの影響を受けるという型の受動文」(益岡 2000: 58) (機縁受動文(7), 発生状況描写(8)を含む)

- (4) あの人に見られていたのか。(古井由吉「杏子」)
(5) この人に手をひかれて、私は京都の寺々をめぐった。(湯川秀樹「旅人」)
(6) そのためにかうかと死なれてしまいました。(松本清張「点と線」)
(7) 私は志乃の鋭い語調に気押されて……。 (三浦哲郎「忍ぶ川」)
(8) 砂浜の上に引き上げられた漁船が、月光に照らされて……。 (福永武彦「草の花」)

[C] 降格受動文：「動作主を背景化することを動機とする受動文」（益岡 2000: 64）

- (9) 海は何年か前にすっかり埋めたてられ……。 (村上春樹「羊をめぐる冒険」)
- (10) そこに日本の国のきまりが書かれているからである。(梅原猛「学問のすすめ」)
- (11) 死体は、さらに警察医によって精細に調べられた。(松本清張「点と線」)

[B]の受影受動文が固有の受動文。[A]と[C]は非固有の受動文。[A]は頻度も低い。以下の主な対象は受影受動文。

4. 受動文と視点

「日本語の受身文と視点」（奥津 1992）などの表題にも見られるように、受動文研究では視点の概念が用いられることが多い。この場合の視点は「視座」と「注視点」のどちらだろうか。

- (12) 「久野風に言うならば有情の受身では視点が主語寄りに設定されているのに対し、非情の受身では視点が「傍観者」すなわち中立位置に設定されている訳である。」(金水 1992: 16)
- (13) 「つまり、日本語の能動・受動は多分に主語の立場にたって、それが行為を引き起こしたのであるのか、それとも行為を被り、心理的な作用を感じるのか、という意味局面を重視したものであったと考えられる。」(柴谷 2000: 154, 下線は成田)
- (14) 「受身文の意味は、事態から何らかの影響を受けることを、その影響の受け手の立場から述べるものである。」(日本語記述文法研究会編 2009: 214, 下線は成田)
- (15) 「「視点」というのは、どの人の立場から見ているかということで、たとえば、「社長が課長を呼んだ」は「社長」の立場からで、「課長は社長に呼ばれた」は「課長」の立場から事態をとらえているということです。」(野田 1991: 133, 下線は成田)

⇒ これらの記述から、日本語の固有の受動文との関連で言及される「視点」は「視座」の意味で理解されていると考えられる。つまり、日本語の固有の受動文は視座の位置が能動文とは異なるということになる。

⇒ 従来、日本語の受動文に関しては主語が有情者か無情物かということが問題にされてきたことも関連。注視点（目を向ける先）ならば有情者か無情物かはそれほど問題にならないはず。

ではドイツ語はどうか。まず日本語と比べた際の英語に関して

- (16) 「日本語の固有の表現においては、「表層構造の視点ハイアラキー」がよく当てはまる。(…)これに対し英語では(…)能動文と受身文の選択の動機として、視点の移動という因子は必ずしも重要ではなく、付随的な効果に過ぎない場合もあるという可能性が高い。」(金水 1992: 18)

(17) 表層構造の視点ハイアラキー

「一般的に言って、話し手は、主語寄りの視点を取ることが一番容易である。目的語寄りの視点をとることは、主語寄りの視点を取るのより困難である。受身文の旧主語（対応する能動文の主語）寄りの視点を取るのは、最も困難である。

E(主語) > E(目的語) > E(受身文の旧主語) (久野 1978: 169)

⇒ ドイツ語の能動文と受動文の意味の違い：「視座」ではなく「注視点」の違いと予測

5. ドイツ語 werden-受動文の構造と意味

(18) a. Der Mechaniker reparierte den Motor.

整備士_主 修理した エンジン_対 (整備士がエンジンを修理した。)

b. Der Motor wurde (vom Mechaniker) repariert.

エンジン_主 助動詞_{受動} (整備士から) 修理する_{過分} (エンジンが(整備士によって)修理された。)

(19) 文成分の序列：主格主語 > 対格目的語 > 与格目的語 > 前置詞句

[A] 主語 ⇒ 前置詞句：主語の「降格」⇒ 動作主(Agens)の背景化

ドイツ文法の記述：「行為者から目を逸らした (täterabgewandt)」表現，「出来事中心の見方 (geschehensbezogene Sehweise)」などの特徴付けが散見

(20) „In Passivsätzen hingegen konzentriert sich die Aufmerksamkeit auf das Geschehen, die Größen treten zurück und werden teilweise auch gar nicht genannt.“ (Engel 2004: 239) 「これに対して受動文では注目が出来事に集まる。参加者は後退し，部分的にまったく表示されなくなる。」

※ Brinker (1971: 39ff.)の調査では werden 受動文の約 86%で動作主表示前置詞句なし

[B] 対格目的語 ⇒ 主語：対格目的語の「昇格」⇒ 対象(Patiens)の前景化・焦点化

(21) „Indem Urheber oder Ursache (Agens) aus dem Blickfeld gerückt werden, wird die Aufmerksamkeit des Hörers auf den Betroffenen oder das Bewirkte (Patiens) gelenkt.“ (Flämig 1991:426) 「主導者又は原因(動作主)が視野から外され，聞手の注目が被動者や行為の結果(受け手)へ導かれる。」

(22) Dieses Zimmer wurde im Winter fast nie beheizt und auch im Sommer fast nie benutzt. (Vor)

この部屋_主 助動詞_{受動} 冬に ほとんど 否定 暖房する_{過分} そして また 夏に ほとんど 否定 使う_{過分}
この居間は冬でも暖房を入れなかったし，夏にもほとんど使われなかった。(朗読者 16)

[C] 与格，属格，前置詞句などは不変 ⇒ 意味的にも変更はなし

[D] 1項動詞の受動文 ⇒ 主語他の補足成分の無い文：行為・動作の前景化・焦点化

(23) a. Hier arbeiten alle fleißig. ここでは皆が熱心に働く。

ここで はたらく 皆_主 熱心に

b. Hier wird (von allen) fleißig gearbeitet. ここでは(皆が)熱心に働く。

ここで 助動詞_{受動} (皆により) 熱心に 働く_{過分}

⇒ ドイツ語の能動文と受動文：「何に目を向けるか・向けないか」の違い(焦点化)

⇒ ドイツ語文法記述で受動文主語の有情・無情は問題にされていない。

※ 文意味のレベルとテーマ・レーマ分節のレベル

ドイツ語の受動文の働きは文の情報構造(テーマとレーマへの文節)との関連で論じられることが多いが，「何に目を向けるか」は個々の文に関する意味の問題であり，前後の文脈と切り離して考える問題。言語外の事態を言語的に捉え，文へと形成する際に，どの事態参加者(動作主，動作対象など)を言わば主役としてスポットライトを当て，どの事態参加者を背景化し，場合によっては描写の対象から除外するかという問題。

6. いくつか提示できるデータ

6.1. 主語の有無と有情・無情, 動作主の表示

(日)赤川「女社長」: 受動文 200 だけ調査。約半数が無主語。有主語では人主語 (連体含む) は 65, 人以外は 31。無主語文の大半が文脈から人主語の省略と判断できそう。

(日)川端「雪国」: 受動文 119 で, 人 (予測含む) が主語は 86, 人以外は 27, その他 5

※ 雪国は予測した結果も有主語にカウントしてしまったのでカウントし直しが必要。

(ド)推理小説 (ピンクヴァルト「高血圧」): 受動文 118, 人が主語は 41, 人以外は 74, 無主語 3

(ド)短編小説 (カフカ「変身」): 受動文 53 で, 人が主語は 10, 人以外は 42, 無主語 0

(ド)短編小説 (シュニツラー「夢奇譚」): 受動文 29 で, 人が主語は 15, 人以外は 14, 無主語 0

動作主 (日本語「～に」, ドイツ語 von+与格, durch+対格) についても調査予定。その意図は

(24) 「ある種の環境に現れる受身文のニ格名詞句は, 単に文法構造上主語から格下げされた行為者を表しているのではなく, 行為の対象があえて事態把握の核として主語に据えられている受身文に置いて, 主語が被る行為を行う行為者としての性質を積極的に持っていると考えられる。」 (坪井 2002: 67)

6.2. 視点制約との関連

[A] 日本語では視点制約にしたがって受動文。ドイツ語は動作主を主語にして能動文。

(25) でも親の見栄であるそこ (=学校) に入れられちゃったのよ。(…) で, 入れられちゃったわけ。(ノル上 112) [E (私) > E (親)]

Aber aus Geltungsbedürfnis haben meine Eltern mich dahin geschickt.

でも 見栄から 助動詞_{完了} 私の両親_主 私_対 そこに 入れる_{過分}

Also haben sie mich hier reingesteckt.

つまり 彼ら_主 助動詞_{完了} 私_対 ここに 入れる_{過分}

(26) まるで荒れた冷たい海から引きあげられて毛布にくるまれて温かいベッドに横たえられているようなそんな気分ね。(ノル上 220) [E (私) > E (不定)]

Es war, als hätte mich jemand aus einem tosenden, eisigen Meer gerettet,

それは だった まるで 助動詞_{完了} 私_対 誰か_主 荒れた冷たい海から 救う_{過分}

in Decken gehüllt und in ein warmes Bett gepackt.

毛布に くるむ_{過分} そして 暖かいベッドに 詰め込む_{過分}

(27) 私きっとおにぎりに梅干ししか入れなかったっていう理由で銃殺されちゃうもの。あなただって銃殺されちゃうわよ。仮定法をきちんと理解しているというような理由で (ノル下 62) [E (私) > E (彼ら)] [E (あなた) > E (彼ら)]

Wahrscheinlich würden sie mich sowieso erschießen, weil ich Reisbällchen

たぶん だろう 彼ら_主 私_対 どのみち 射殺する ~なので 私_主 おにぎり_対

mit sauren Pflümchen fülle. Dich auch, weil du den Konjunktiv kapiertest.

梅干しで 満たす あなた_対 も ~なので あなた_主 接続法_対 わかる

[B] ドイツ語では視点制約が無効で、1人称を動作主として表示する受動文も可能

(28) Wird gemacht! (私が) すぐやります!

(29) „Früher wollte jede Gemeinde ein Schwimmbad, heute will jede eine Therme. Das wird von mir nicht unterstützt“, erklärte Hirschmann. Die Projekte in den Regionen sollen sich unterscheiden, um Synergie-Effekte zu erzielen. (Kleine Zeitung, 30.05.1998) 以前はどの市町村もプールを作りたがったが、今日では温泉浴場を作りたがる。「これを私は支持しない(<これは・私によっては・支持されない>)」とヒルシュマンは言う。相乗効果を狙うために地域ごとのプロジェクトは異なっていてしかるべきだ。

(30) Plötzlich fragt Richter Fiala ins Publikum: „Ist der Bürgermeister da?“ „Ja, hier. Was gibt's?“ fragt Krieger zurück. „Sie werden von mir angezeigt“, kündigt ihm Richter Fiala an. „Ich nehme das zur Kenntnis“, sagt Krieger, ohne seinen Kaugummi aus dem Mund zu nehmen. Der Kaugummi im Mund des Bürgermeisters hat Fiala übrigens „die ganze Verhandlung hindurch“ gestört. (Die Presse, 14.10.2000) 突然、裁判官フィアーラは傍聴席に向かって問いかける。「市長はここにおいでですか。」「はい、ここにおります。なんでしょう。」とクリーガーは問い返す。「あなたを私は訴えます (<あなたは・私によって・訴えられる>)」と市長にフィアーラは伝える。「わかりました」とクリーガーはガムを口から出すことなく言う。市長の口の中にあったガムが フィアーラは「審理中ずうっと」気になっていたとのこと。

(31) In der Natur sollte man sich ruhig verhalten und die Tiere nicht stören, das heißt also auch, nicht so stark toben. Natürlich darf auch kein Müll in die Natur geworfen werden. „Keiner geht alleine in den Bach, ihr werdet von mir alle abgeseilt und so wieder nach oben geholt. Außerdem fasst keiner Säugetiere an, egal wie süß sie sind“, erklärte Dorothee Klein. (Mannheimer Morgen, 23.08.2005) (公園管理人が子どもたちに自然公園の川での遊び方を説明して) 自然の中では静かに行動し、動物たちの邪魔にならないように、つまりあまり騒ぎ回らないように。もちろんゴミを自然のなかに投げ散らかしてはいけない (<もちろん・許可・ゴミも・自然の中へ・投げ込まれては行けない>)。「誰も1人で川に入らないこと。君たちはみんな私がロープで川に下ろし、また引き上げてあげます (<君たちは・私によって・みんな・ロープで下ろされ・そして・同じように・また・上へ・連れてこられる>)。それから、どんなにかわいくとも哺乳動物に手を触れないこと」とドロテー・クラインは説明した。

6.3. 自動詞ベースの受動文の比較

(32) 「日本語の自動詞ベースの受身は一般的に動作主を表現しないと座りが悪く、このような文は文脈から動作主が同定できない状況では使えない。」(柴谷 2000: 148, 以下の例文も同書から)

花子は子どもたちに一晩中泣かれた。 — ?花子は (一晩中) 泣かれた。

花子はいやな人に横に座られた。 — ?花子は (横に) 座られた。

花子は可愛がっていたイヌに死なれた。 — ?花子は (去年の夏に) 死なれた。

(33) 七八軒先きのスキイ製作所から鉦の音が聞える。その反対側の軒陰に芸者が五六人立話をしていた。 (...) / 「困るわ、あんなどこお通りになっちゃ。」 / 「困るって、こっちこそ困るよ。 あんなに勢揃いしてられると、恐ろしくて通れんね。いつもああかい。」(川端「雪国」)

(34) 「なにも叱りゃしないじゃないの。洗濯するものまで、きちんと畳んでおくって、 よく笑われるけれど、性分ね。」(川端「雪国」)

- (35) 「ええ。あの店へ入るはずだったのを、ねえさんの心柄でふいにしちやっただわ。(…) 夢中になると、あんなかしらね。その相手に逃げられたからって、今更元の鞆におさまって、店を貫きますというわけにもいかないし、みっともなくてこの土地にはいられないし、またよそで稼ぎ直すんですわ。(…)」(川端「雪国」)
- (36) 文面は型通りで、「一身上の都合」としか記していなかったが、それにしても、しばらく伸子は呆然としてしまった。三枝に辞められては大変だ。(赤川「女社長に乾杯」)
- (37) „Verordnung Nummer eins: Die Benzinkutsche bleibt im Stall. Hier wird gelaufen, und zwar nicht im Großstadttempo, sondern im Kurschritt. (...)“ (tpm) ここでは歩くのですよ。それも大都会の店舗ではなく、保養地のテンポで。
- (38) „Ein Hotel hat einen Ruf. Das ist ein unberechenbares Ding, mit dem sehr behutsam umgegangen werden muß. (...)“ (tpm) ホテルには評判というものがあります。これは当てにならないものだから、とても慎重に扱わないといけないのです。
- (39) Auch da wurde täglich erneut um den Ruf, um den Namen eines Blattes gekämpft. (tpm) そこ(新聞業界)でも日々あらたに評判をめぐって、つまり新聞の名声をめぐって闘っていた。
- (40) Um sieben wurde zu Abend gegessen ... (Vorleser 42) わが家の夕食は七時で... (朗 51)
- (41) Verhandelt wurde montags bis donnerstags ... (Vorleser 87) 法廷が開かれるのは月曜から木曜まで... (朗 107)

6.4. 「盗んだ車」と「盗まれた車」

- (42) Der Verdacht: Der Täter hat das gestohlene Auto als Fluchtfahrzeug verwendet. (Die Presse, 14.03.1992) 疑惑：犯人は盗んだ車を逃走用に使った。
- (43) Gegen Mittag konnte die Polizei nach dem Hinweis einer Zeugin das gestohlene Auto sicherstellen. (Mannheimer Morgen, 13.10.1999) 昼ごろ警察は目撃者の指摘に従って盗まれた車を押収した。

6.5. サンプルテキストと和訳

Gregor sah ein, daß er den Prokuristen in dieser Stimmung auf keinen Fall weggehen lassen dürfe, wenn dadurch seine Stellung im Geschäft nicht aufs äußerste gefährdet werden sollte. Die Eltern verstanden das alles nicht so gut; sie hatten sich in den langen Jahren die Überzeugung gebildet, daß Gregor in diesem Geschäft für sein Leben versorgt war, und hatten außerdem jetzt mit den augenblicklichen Sorgen so viel zu tun, daß ihnen jede Voraussicht abhanden gekommen war. Aber Gregor hatte diese Voraussicht. Der Prokurist mußte gehalten, beruhigt, überzeugt und schließlich gewonnen werden; die Zukunft Gregors und seiner Familie hing doch davon ab! (F. Kafka, die Verwandlung)

グレーゴルはすぐに気づいた。マネージャーをこんな気分のまま帰らせるのは絶対にまずい。このままだとおれはクビにすらなりかねない。両親の方は事情がよくわかっていなかった。長い年月のうちに、グレーゴルがいまの会社で一生面倒をみてもらえるものだ、と確信していたし、おまけに

目先の心配に気をとられ、将来のことなどまったく見通せない。だがグレーゴルはその将来が見通せた。マネージャーを引き止め、安心させ、納得させ、最終的には味方につけなくてはならない。グレーゴルと家族の将来は、そこにかかっているのだ。(丘沢静也訳 57 ペ)

例文などの出典

- ・ 赤川次郎「女社長に乾杯」(CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊)
- ・ Frank Kafka, *Die Verwandlung*. (=カフカ「変身」, Deutsche Literatur von Luther bis Tucholsky デジタル版所)
- ・ 川端康成「雪国」(CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊)
- ・ Arthur Schitzler, *Die Traumnovelle*. (=シュニツラー「夢奇譚」, Deutsche Literatur von Luther bis Tucholsky デジタル版所収)
- ・ ベルンハルト・シュリンク, 松永美穂訳「朗読者」 新潮文庫, 2003 年. /Bernhard Schlink, *Vorleser*. Diogenes Taschenbuch, 1997.
- ・ Heinz Pinkwart, *Mord ist schlecht für hohen Blutdruck*. (ピンク ヴァルト「高血圧」/tpm : Mannheimer Korpus I 所収)
- ・ 村上春樹「ノルウェイの森(上・下)」 講談社文庫. /Haruki Murakami, *Naokos Lächeln*. Deutsch von Ursula Gräfe.

参考文献(本ハンドアウトで言及したもののみ)

- 奥津敬一郎(1992)「日本語の受身文と視点」日本語学, 1992 年 8 月号, 4-11.
- 金水 敏(1992)「場面と視点」日本語学, 1992 年 8 月号, 12-19.
- 久野 暉(1978)『談話の文法』大修館.
- 柴谷方良(2000)「3 ヴォイス」『日本語の文法 1 文の骨格』岩波書店, 120-186.
- 坪井栄治郎(2002)「受影性と受身」西村義樹編『認知言語学 I : 事象構造』日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 2』くろしお出版.
- 野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』くろしお出版.
- 松木正恵(1992)『『見ること』と文法研究』日本語学, 1992 年 8 月号, 57-71.
- 益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版.
- 茂呂雄二(1985)「児童の作文と視点」日本語学, 1985 年 12 月号, 51-60.
- Brinker, Klaus (1971), *Das Passiv im heutigen Deutsch. Form und Funktion*, München: Huber/Schwann.
- Engel, Ulrich (2004), *Deutsche Grammatik, Neubearbeitung*. München: Iudicium Verlag.
- Flämig, Walter (1991), *Grammatik des Deutschen. Einführung in Struktur- und Wirkungszusammenhänge*, Berlin: Akademie Verlag.